(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3549924号
(P3549924)
(45)発行日　平成16年8月4日(2004.8.4)　(24)登録日　平成16年4月30日(2004.4.30)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A45D 33/00　A45D 33/00　61OC

請求項の数 10　(全 14 頁)

(21)出願番号　特願平6-200980
(22)出願日　平成6年8月25日(1994.8.25)
(65)公開番号　特開平8-56743
(43)公開日　平成8年3月5日(1996.3.5)
審査請求日　平成12年8月18日(2000.8.18)

(73)特許権者　000001959
株式会社資生堂
東京都中央区銀座７丁目５番５号
(74)代理人　100068191
弁理士　清水　修
(72)発明者　知久　真巳
神奈川県横浜市港北区新羽町１０５０　株式会社資生堂開発研究所内
(72)発明者　嶋村　直美
神奈川県横浜市港北区新羽町１０５０　株式会社資生堂開発研究所内

審査官　氏原　康宏

最終頁に続く

(54)【発明の名称】化粧用コンパクト容器

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

化粧料の収納部を設けた収納体と、この収納体の一端に接続して収納体の表面を開閉可能に被覆する蓋体とから成るものに於て、この蓋体の内面に、外方に付勢して摺動可能に蓋側フックピースを接続し、この蓋側フックピースは収納体方向に開放用の押圧片を突出するとともに押圧片の収納部側に、挿入間隔を介して蓋側係合フックを押圧片と平行に突出して形成し、この蓋側係合フックと収納部との間に蓋側フックピースの摺動間隔を形成するとともに蓋側係合フックの押圧片側に傾斜面を設け、この傾斜面の蓋体側に蓋側段部を形成するとともにこの蓋側段部に係合可能な係合段部を設けた収納側フックピースを、挿入間隔に挿入して収納体に突出し、この収納側フックピースの蓋体側に、傾斜面と押圧摺動可能な押圧傾斜面を形成するとともに収納側フックピースの押圧片側に、押圧片の突き当て押し上げが可能な押し上げ傾斜面を形成し、この押し上げ傾斜面に押圧片を突き当てた状態で、蓋側段部と係合段部との先端が係合関係を継続するよう蓋側段部と係合段部との係合代を形成し、押圧片を更に押し上げ傾斜面に押圧した時、蓋側段部の先端が、係合段部の先端を乗り越えて係合を解除するよう構成したものである事を特徴とする化粧用コンパクト容器。

【請求項２】

押し上げ傾斜面は、収納側フックピースの押圧片側を凹設して押圧片の挿入部とし、この挿入部内に形成したものである事を特徴とする請求項１の化粧用コンパクト容器。

【請求項３】

蓋側段部と係合段部との係合代は、蓋体の外端縁から突出する押圧片の突出代よりも大きなものである事を特徴とする請求項１の化粧用コンパクト容器。
【請求項４】
蓋側段部と係合段部との形成面は、蓋側フックピースの摺動方向と平行に形成したものである事を特徴とする請求項１の化粧用コンパクト容器。
【請求項５】
蓋側段部と係合段部との形成面は、蓋体側を上部とする１°～１５°の傾斜面と成るよう形成したものである事を特徴とする請求項１の化粧用コンパクト容器。
【請求項６】
化粧料の収納部を設けた収納体と、この収納体の一端に接続して収納体の表面を開閉可能に被覆する蓋体とから成るものに於て、この収納体の内面に、外方に付勢して摺動可能に収納側フックピースを接続し、この収納側フックピースは蓋体方向に開放用の押圧片を突出するとともに押圧片の収納部側に、挿入間隔を介して収納側係合フックを押圧片と平行に突出して形成し、この収納側係合フックと収納部との間に収納側フックピースの摺動間隔を形成するとともに収納側係合フックの押圧片側に傾斜面を設け、この傾斜面の収納体側に収納側段部を形成するとともにこの収納側段部に係合可能な係合段部を設けた蓋側フックピースを、挿入間隔に挿入して蓋体に突出し、この蓋側フックピースの収納体側に、傾斜面と押圧摺動可能な押圧傾斜面を形成するとともに蓋側フックピースの押圧片側に、押圧片の突当て押し上げが可能な押し上げ傾斜面を形成し、この押し上げ傾斜面に押圧片を突き当てた状態で、収納側段部と係合段部との先端が係合関係を継続するよう収納側段部と係合段部との係合代を形成し、押圧片を更に押し上げ傾斜面に押圧した時、収納側段部の先端が、係合段部の先端を乗り越えて係合を解除するよう構成したものである事を特徴とする化粧用コンパクト容器。
【請求項７】
押し上げ傾斜面は、蓋側フックピースの押圧片側を凹設して押圧片の挿入部とし、この挿入部内に形成したものである事を特徴とする請求項６の化粧用コンパクト容器。
【請求項８】
収納側段部と係合段部との係合代は、収納体の外端縁から突出する押圧片の突出代よりも大きなものである事を特徴とする請求項６の化粧用コンパクト容器。
【請求項９】
収納側段部と係合段部との形成面は、収納側フックピースの摺動方向と平行に形成したものである事を特徴とする請求項６の化粧用コンパクト容器。
【請求項１０】
収納側段部と係合段部との形成面は、収納体側を上部とする１°～１５°の傾斜面と成るよう形成したものである事を特徴とする請求項６の化粧用コンパクト容器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、ファンデーション等の化粧用コンパクト容器に係るものである。
【０００２】
【従来の技術】
従来、ファンデーション等の化粧料を、収納した化粧用コンパクト容器の開閉装置には、図１０に示す如く、化粧料（１）を収納する収納体（２）に、収納側フック（３）を突出し、この収納側フック（３）の側面に、断面をく字型とする突起（４）を突出したものが存在する。この従来例は、収納側フック（３）の突起（４）の下側に係合する断面く字型の突起（５）を設けた蓋側フック（６）を、蓋体（７）から下面側に突出している。
【０００３】
そして、この収納体（２）側には、収納側フック（３）方向を上部とする押し上げ傾斜面（８）を形成するとともに、この押し上げ傾斜面（８）に下端を突き当てる蓋側フックピース（１０）を断面Ｌ字型に形成している。そして、この蓋側フックピース（１０）の挿

入片（１１）を、蓋体（７）の挿入穴（１２）に挿入することにより、蓋体（７）の長さ方向に、蓋側フックピース（１０）を摺動可能に形成している。

【０００４】

この従来例に於て、蓋体（７）の開放を行うには、蓋側フックピース（１０）を収納体（２）方向に押圧することにより行う。蓋側フックピース（１０）を押し上げ傾斜面（８）に沿って収納体（２）方向に押圧することにより、この押し上げ傾斜面（８）に従って蓋側フックピース（１０）が上昇する。同時に、蓋体（７）及び蓋側フック（６）も上昇するから、収納側フック（３）の突起（４）は、蓋側フック（６）のく字型の突起（５）を乗り越えて、蓋側フック（６）と収納側フック（３）の係合が解除され、蓋体（７）は開放されるものとなる。

【０００５】

また、蓋体（７）を収納体（２）の上面に閉止する場合には、蓋体（７）を単に収納体（２）側に押圧すれば、蓋側フック（６）の突起（５）は、収納側フック（３）の先端を乗り越えて、収納側フック（３）の突起（４）の下面側に入り込むことになるから、蓋体（７）による収納体（２）の被覆が可能となる。

【０００６】

この場合に於て、蓋体（７）の蓋側フック（６）は開放時に於ても、また閉止時に於ても、収納側フック（３）の先端を乗り越えて、開放若しくは閉止が行われる。そのため、開閉を行う者の手元に、この収納側フック（３）を乗り越えた感覚、クリック感が伝わることとなり、蓋体（７）の完全閉止、若しくは蓋体（７）の完全開放を確実に伝えることができるものとなる。

【０００７】

しかしながら、この従来のコンパクト容器の開閉装置は、収納側フック（３）の突起（４）が断面く字型に形成されているため、突起（４）の傾斜面が緩やかなものとなる。また、蓋側フックピース（１０）が蓋体（７）の外端縁よりも外方に大きく突出した形状となっているため、コンパクト容器（１３）を誤って落下させるとか、ハンドバックの中等で何らかの原因により、蓋側フックピース（１０）に衝撃が加わった場合、容易に蓋体（７）を開放してしまうものとなっていた。そのため、収納体（２）内部のファンデーション等の化粧料が、外部に飛び出して破損してしまう等の欠点を生じていた。

【０００８】

また、このような欠点を除去する目的で図１１、図１２に示す如く、蓋側フック（６）と収納側フック（３）が係合する係合段部（１４）（１５）を形成し、この段部（１４）（１５）を、蓋側フックピース（１０）の摺動方向と平行に形成したものが存在する。

【０００９】

この従来方法は、係合段部（１４）（１５）の係合が分離方向に９０°の平面で行われているため、係合が確実となり、通常の衝撃等では、蓋側フック（６）と収納側フック（３）の係合解除が成されないように成っている。

【００１０】

このように形成した従来例は、外部からの蓋側フックピース（１０）への衝撃、ハンドバック内等における蓋側フックピース（１０）への押圧力が加えられた場合でも、収納側フック（３）と蓋側フック（６）との分離を、容易に行わせない利点は有している。そして、化粧料（１）を使用するための開放に於ては、蓋側フック（６）と収納側フック（３）の係合段部（１４）（１５）が、接触しない位置まで蓋側フックピース（１０）を移動させた後に、蓋側フック（６）を開放するように形成している。

【００１１】

【発明が解決しようとする課題】

そのため、蓋側フックピース（１０）を収納体（２）側に押し込んだ場合に於ても、係合段部（１４）がその係合状態を解除したかどうかは、蓋体（７）を上方に持ち上げる等の操作を行わなければ、外部から知ることができないものとなっている。

【００１２】

このような係合段部（１４）（１５）の係合解除を、確実に知ることができるようにするためには、蓋体（７）若しくは収納体（２）のいずれか一方に、蓋体（７）と収納体（２）とを、分離方向に付勢する付勢手段を設けねばならず、構成を複雑なものとする欠点を有している。

【００１３】

本発明は上述の如き課題を解決しようとするものであって、蓋体の閉止時及び開放時に於て、確実な開放、または確実な閉止が行われたことを、クリック感により、使用者の手元に確実に感覚させることができることを第一の目的とする。また、コクパクト容器を誤って落下させたり、ハンドバック等の収納部内に於て、他の物と接触したり、軽い押圧力をかけられた場合にも、蓋体が不用意に開放し、内部の化粧料等を破損したり、周囲を汚染したりすることがないようにしようとするものである。

【００１４】

【課題を解決するための手段】

本発明は上述の如き課題を解決するため、化粧料の収納部を設けた収納体と、この収納体の一端に接続して収納体の表面を開閉可能に被覆する蓋体とから成るものに於て、この蓋体の内面に、外方に付勢して摺動可能に蓋側フックピースを接続し、この蓋側フックピースは収納体方向に開放用の押圧片を突出するとともに押圧片の収納部側に、挿入間隔を介して蓋側係合フックを押圧片と平行に突出して形成し、この蓋側係合フックと収納部との間に蓋側フックピースの摺動間隔を形成するとともに蓋側係合フックの押圧片側に傾斜面を設け、この傾斜面の蓋体側に蓋側段部を形成するとともにこの蓋側段部に係合可能な係合段部を設けた収納側フックピースを、挿入間隔に挿入して収納体に突出し、この収納側フックピースの蓋体側に、傾斜面と押圧摺動可能な押圧傾斜面を形成するとともに収納側フックピースの押圧片側に、押圧片の突き当て押し上げが可能な押し上げ傾斜面を形成し、この押し上げ傾斜面に押圧片を突き当てた状態で、蓋側段部と係合段部との先端が係合関係を継続するよう蓋側段部と係合段部との係合代を形成し、押圧片を更に押し上げ傾斜面に押圧した時、蓋側段部の先端が、係合段部の先端を乗り越えて係合を解除するよう構成して成るものである。

【００１５】

また、押し上げ傾斜面は、収納側フックピースの押圧片側を凹設して押圧片の挿入部とし、この挿入部内に形成したものであっても良い。

【００１６】

また、蓋側段部と係合段部との係合代は、蓋体の外端縁から突出する押圧片の突出代よりも大きなものであっても良い。

【００１７】

また、蓋側段部と係合段部との形成面は、蓋側フックピースの摺動方向と平行に形成したものであっても良い。

【００１８】

また、蓋側段部と係合段部との形成面は、蓋体側を上部とする１°～１５°の傾斜面と成るよう形成したものであっても良い。

【００１９】

また、化粧料の収納部を設けた収納体と、この収納体の一端に接続して収納体の表面を開閉可能に被覆する蓋体とから成るものに於て、この収納体の内面に、外方に付勢して摺動可能に収納側フックピースを接続し、この収納側フックピースは蓋体方向に開放用の押圧片を突出するとともに押圧片の収納部側に、挿入間隔を介して収納側係合フックを押圧片と平行に突出して形成し、この収納側係合フックと収納部との間に収納側フックピースの摺動間隔を形成するとともに収納側係合フックの押圧片側に傾斜面を設け、この傾斜面の収納体側に収納側段部を形成するとともにこの収納側段部に係合可能な係合段部を設けた蓋側フックピースを、挿入間隔に挿入して蓋体に突出し、この蓋側フックピースの収納体側に、傾斜面と押圧摺動可能な押圧傾斜面を形成するとともに蓋側フックピースの押圧片側に、押圧片の突当て押し上げが可能な押し上げ傾斜面を形成し、この押し上げ傾斜面に

押圧片を突き当てた状態で、収納側段部と係合段部との先端が係合関係を継続するよう収納側段部と係合段部との係合代を形成し、押圧片を更に押し上げ傾斜面に押圧した時、収納側段部の先端が、係合段部の先端を乗り越えて係合を解除するよう構成したものである。

【００２０】

また、押し上げ傾斜面は、蓋側フックピースの押圧片側を凹設して押圧片の挿入部とし、この挿入部内に形成したものであっても良い。

【００２１】

また、収納側段部と係合段部との係合代は、収納体の外端縁から突出する押圧片の突出代よりも大きなものであっても良い。

【００２２】

また、収納側段部と係合段部との形成面は、収納側フックピースの摺動方向と平行に形成したものであっても良い。

【００２３】

また、収納側段部と係合段部との形成面は、収納体側を上部とする１°～１５°の傾斜面と成るよう形成したものであっても良い。

【００２４】

【作用】

本発明は上述の如く構成したものであるから、蓋体を開放しようとする場合は、蓋側フックピースを収納体方向に押圧することによって行う。この押圧に伴って蓋側フックピースは、板バネ等の付勢力に抗して収納体方向に移動する。同時に、押し上げ傾斜面にその下端を接触するものとなる。この状態に於いて、収納側フックピースの係合段部と蓋側係合フックの蓋側段部とは、その先端部を少ない寸法ではあるが係合状態を保ったままとなっている。

【００２５】

そして、蓋側フックピースを更に強く押圧することにより、蓋側フックピースは、押し上げ傾斜面を更に摺動して上方に移動する。そのため、僅かに係合していた係合段部と蓋側段部は、蓋側段部が係合段部の先端を乗り越えてその係合を解除するものとなる。

【００２６】

この乗り越え時に、押圧片を押圧する使用者は、手元にクリック感を得ることができるものとなる。そして、この押し上げ傾斜面を摺動した蓋側フックピースの押し上げにより、蓋体はある程度の勢いをもって開放されるものとなるから、使用者は押圧片を押圧することによって、蓋体の確実な開放を可能とすることができる。

【００２７】

また、収納体の表面を蓋体で閉止するには、蓋体を収納体の上面に位置させて、蓋体を上部から押圧すればよい。蓋体を収納体の上面に位置させると、収納側フックピースの押圧傾斜面と、蓋側フックの傾斜面とが接触する。この状態で蓋体を収納体方向に押圧すれば、押圧傾斜面と傾斜面とが接触しながら摺動する。そして、蓋側段部の先端が係合段部の先端を乗り越えた時に、蓋側フックピースは付勢力により、蓋側段部を係合段部の下面に係合することになる。そのため、以後、蓋側フックピースを再度押圧するまでは、蓋体の開放はできないものとなる。

【００２８】

そして、蓋体の上記押圧により、係合段部の下面に蓋側段部が挿入されるとき、係合段部の先端を蓋側段部が乗り越えることによって、使用者にクリック感を感じさせる事ができる。そのため、使用者は蓋体が確実に閉止されたことを知ることができるものである。

【００２９】

また、収納側フックピースの押圧片側を凹設して押圧片の挿入部とすれば、蓋側フックピースの押圧片が、外部に突出する量を少なくすることができる。そのため、外部衝撃が押圧片に加えられても、押圧片の移動量を少なくすることができ、蓋体の不用意な開放を少なくできる。

【００３０】
また、蓋側段部と係合段部との係合代を、蓋体の外端縁から突出する押圧片の突出代よりも大きなものとすれば、コンパクト容器を落下させたり、ハンドバック内に於て、押圧片に強い押圧力が加えられた場合にも、蓋体の不用意な開放を防止できるものとなる。即ち、外部からの押圧力による押圧片の移動距離は、蓋体の外端縁までに限定されるから、押圧片の突出代よりも、係合段部と蓋側段部との係合代の方が大きくなり、係合段部と蓋側段部との係合が解除されることはなく、安全な使用を可能とすることができる。
【００３１】
また、蓋側段部と係合段部の形成面を、蓋側フックピースの摺動方向と平行に形成すれば、係合段部と蓋側段部との分離がしにくくなり、コンパクト容器を落下させた場合にも、容易に蓋体が開放されるようなことがない。
【００３２】
また、蓋側段部と係合段部との形成面を、蓋体側を上部とする１°～１５°の傾斜面に形成することにより、押圧片を押圧した場合に、係合段部と蓋側段部との係合解除が容易となり、押圧片の押圧力を少なくすることが可能となる。ただし、この場合もその傾斜角度が１５°を超えるものであっては、蓋体を閉止するときに、蓋側段部が係合段部と係合した後、蓋側段部と係合段部とが摺動して定位置となるまでに、摺動摩擦抵抗が大きくなり、蓋側フックピースの戻りが悪くなる欠点を生じる。また、傾斜角度が１°未満であっては、押圧片の押圧力を少なくする効果を生じないものである。
【００３３】
【実施例】
以下本発明の実施例を図面に於て説明すれば、（２１）は収納体で、収納部（２０）内部に中皿（２２）を装着し、この中皿（２２）内にファンデーション等の化粧料（２３）を収納している。また、収納体（２１）は表面を開放可能に被覆する蓋体（２４）を、軸支（図示せず）等の方法により一端に接続し、蓋体（２４）を開閉可能としている。
【００３４】
そして、この蓋体（２４）の内面に、板バネ（２５）の付勢力により、外方に付勢される蓋側フックピース（２６）を収納可能に接続している。また、蓋側フックピース（２６）への板バネ（２５）による付勢は、図２に示す如く板バネ（２５）を山形に成型し、蓋体（２４）の下面に設けた係合溝（２７）に両端部（２８）（２９）を係合し、この両端部（２８）（２９）の少なくとも一方が係合溝（２７）に対して摺動自在としている。
【００３５】
また、この蓋側フックピース（２６）は、図２、図３に示す如く、蓋体（２４）に固定した保持体（３１）の挿入溝（３２）内に、側面に突出したフランジ（３３）を係合し、蓋体（２４）に対して摺動自在に形成している。
【００３６】
また、この蓋側フックピース（２６）は、蓋体（２４）を開放するための、開放用の押圧片（３４）を収納体（２１）方向に突出している。また、この押圧片（３４）の収納部（２０）側に挿入間隔（３５）を介して、蓋側係合フック（３６）をほぼ平行に突出している。この蓋側係合フック（３６）と押圧片（３４）は、蓋側フックピース（２６）に略コ字型に位置して形成している。この蓋側フックピース（２６）と収納部（２０）との間に、押圧片（３４）による押圧時に蓋側係合フック（３６）が摺動するための摺動間隔（３７）を形成している。
【００３７】
また、蓋側係合フック（３６）の押圧片（３４）側に傾斜面（３８）を設け、この傾斜面（３８）の蓋体（２４）側に、蓋側フックピース（２６）の摺動方向と平行な蓋側段部（４０）を形成している。また、この蓋側段部（４０）に係合可能な係合段部（４１）を設けた収納側フックピース（４２）を形成している。
【００３８】
この収納側フックピース（４２）は、収納体（２１）の上面方向の、蓋側フックピース（

２６）の挿入間隔（３５）に挿入突出して形成している。また、この収納側フックピース（４２）の係合段部（４１）は、蓋側段部（４０）と同一角度の平面に形成している。そしてこの係合段部（４１）の蓋体（２４）側には、蓋側係合フック（３６）の傾斜面（３８）と同一角度の押圧傾斜面（４３）を形成している。

【００３９】

また、収納側フックピース（４２）の押圧片（３４）側を凹設して、押圧片（３４）の挿入部（４４）としている。そして、収納側フックピース（４２）の挿入部（４４）内の下端に、蓋体（２４）側を上部とする押し上げ傾斜面（４５）を形成している。この押し上げ傾斜面（４５）には、押圧片（３４）の下端が突き当たり、押し上げ傾斜面（４５）に沿って蓋側フックピース（２６）を、蓋体（２４）側に押し上げることが可能となるように形成している。

【００４０】

この押し上げ傾斜面（４５）に、押圧片（３４）の下端を突き当てた状態で、蓋側段部（４０）と係合段部（４１）との先端が、係合関係を継続するよう、蓋側段部（４０）と係合段部（４１）との係合代の寸法を形成する。そして、押圧片（３４）を更に押し上げ傾斜面（４５）に押圧した時、蓋側段部（４０）の先端が係合段部（４１）を乗り越えて係合を解除するよう構成している。

【００４１】

また、図面中の（４９）は、蓋体（２４）の内面に設けた鏡である。また、蓋側段部（４０）と係合段部（４１）との係合代は、蓋体（２４）の外端縁から突出する押圧片（３４）の突出代よりも、大きなものとなるように形成している。

【００４２】

上述の如く形成したものに於て、閉止状態にある蓋体（２４）を開放するには、蓋側フックピース（２６）の押圧片（３４）を押圧することにより行う。図１に示す如く、蓋体（２４）の完全閉止状態に於ては、蓋側フックピース（２６）は板バネ（２５）の付勢力により、外部方向に押圧付勢され、蓋側段部（４０）と係合段部（４１）の係合は、確実に行われた状態となっている。

【００４３】

そのため、コンパクト容器（４６）を誤って床面等に落下させ、押圧片（３４）が押圧されたり、押圧片（３４）、蓋体（２４）等に衝撃が加えられるような事態が生じても、係合段部（４１）と蓋側段部（４０）とは、蓋側フックピース（２６）の押圧方向とほぼ平行な方向に形成されているから、蓋側フックピース（２６）に衝撃等が加えられても、容易に離脱することがない。

【００４４】

更に、蓋側フックピース（２６）の押圧片（３４）の下端が、押し上げ傾斜面（４５）に突き当った状態に於ても、係合段部（４１）と蓋側段部（４０）の先端は、分離しないように、その係合代の寸法を形成しているから、更に安全に蓋体（２４）の開放を防止することができる。

【００４５】

また、更に蓋側段部（４０）と係合段部（４１）との係合代を、蓋体（２４）の外端縁から突出する押圧片（３４）の突出代よりも大きなものとしている。そのため、押圧片（３４）に押圧力が加えられ、押圧片（３４）が挿入部（４４）内に挿入された場合にも、蓋体（２４）の外端縁よりも、更に内側に押圧片（３４）が挿入されることは殆どなく、蓋体（２４）の開放を伴うことはない。

【００４６】

また、指等で押圧片（３４）を押圧する場合には、挿入間隔（３５）内に立ち入って押圧片（３４）を押圧することが可能となる。そして、図４に示す如く、押圧片（３４）が押し上げ傾斜面（４５）に突き当った状態に於ては、係合段部（４１）と蓋側段部（４０）の先端は、係合状態を保持したままとなっている。ただし、この係合状態は、大きな係合代ではなく、僅かな係合寸法を保ったものとなっている。

【００４７】
そして、更に押圧片（３４）を指等により強く押圧すれば、押し上げ傾斜面（４５）を押圧片（３４）は、摺動して上昇するから、蓋側段部（４０）は係合段部（４１）を乗り越えて、その係合を解除することができるものとなる。この乗り越え時に於て、押圧片（３４）を押圧する使用者の指には、乗り越え時のクリック感が伝えられるものとなる。そして、このクリック感によって、係合段部（４１）と蓋側段部（４０）との係合が解除されたことを知ることができるものとなる。
【００４８】
また、この蓋側段部（４０）による係合段部（４１）の乗り越えによって、その乗り越え時の付勢力が、蓋体（２４）および収納体（２１）側に伝えられるため、蓋体（２４）は、その付勢力で開放され、図６に示す如く、開放状態とできるものとなる。そして、更に蓋体（２４）を手等により大きく開放すれば、収納体（２１）の中皿（２２）に収納された化粧料（２３）の使用が可能となる。
【００４９】
次に、化粧料（２３）の使用を終わって蓋体（２４）を閉止するには、図６に示すように、蓋体（２４）を閉止方向に移動し、蓋側係合フック（３６）の傾斜面（３８）と収納側フックピース（４２）の押圧傾斜面（４３）とを接触させる。そして、その状態で蓋体（２４）を押圧すれば、図５に示す如く、傾斜面（３８）と押圧傾斜面（４３）は互いに摺動する。そして、その蓋側段部（４０）と係合段部（４１）の先端が一致し、蓋側段部（４０）が係合段部（４１）の先端を乗り越えた時に、板バネ（２５）の復元力により、蓋側係合フック（３６）の係合段部（４１）は、収納側フックピース（４２）の係合段部（４１）の下面に摺動して入り込む。その結果、図４の状態を介して、図１に示す如く、係合段部（４１）と蓋側段部（４０）とは確実に係合されるものとなる。
【００５０】
また、上記実施例に於ては、係合段部(４１)の先端と蓋側段部(４０)の先端の面取りを鋭角的に行って、蓋側段部(４０)と係合段部(４１)との先端部(４７)の乗り越えによるクリック感を強いものとしている。しかし、他の異なる実施例に於ては、図９に示す如く、係合段部(４１)と蓋側段部(４０)との先端部(４７)を弧状に面取りすることにより、係合段部(４１)との先端部(４７)の乗り越えによるクリック感を幾分弱いものとするが、その乗り越えをスムーズに行うことができるようにするものであってもよい。
【００５１】
また、上記実施例に於ては、係合段部(４１)と蓋側段部(４０)との形成面を、蓋側フックピース(２６)の摺動方向と平行な平面にすることにより、蓋体(２４)と収納体(２１)の不用意な分離を防止するものとしている。しかし、係合段部(４１)と蓋側段部(４０)との形成面は、必ずしも確実な平行面とする必要はなく、図８に示す如く、蓋側段部(４０)と係合段部(４１)との形成面は、蓋体(２４)側を上部とするよう傾斜形成してもよい。
【００５２】
ただし、この傾斜はあまりに緩いものである場合は、従来例と同じくコンパクト容器の落下等の衝撃によって、蓋体（２４）の開放を容易とする可能性があるために、この傾斜は１°～１５°の範囲に限定されるべきものである。
【００５３】
また、上記実施例に於て、指等に押圧されて摺動する蓋側フックピース（２６）を蓋体（２４）側に形成し、固定的に位置する収納側フックピース（４２）を収納体（２１）側に形成するものとした。しかし、異なる実施例に於いては、図７に示す如く、摺動可能な蓋側のフックピース（４２）を収納体（２１）側に形成し、また、固定的に突出した収納側のフックピース（４２）を、蓋体（２４）側に突出することも、もちろん可能なものとなる。
【００５４】
この場合、説明の便利のため、上記実施例に於て、蓋側フックピース（２６）としたものを、収納側のフックピース（４８）とし、また、収納側フックピース（４２）としたもの

を、蓋体側のフックピース（５０）とするが、これは実質的に何ら差異のないものである。

【００５５】

そして、化粧料（２３）の収納部（２０）を設けた収納体（２１）と、この収納体（２１）の一端に接続して収納体（２１）の表面を開閉可能に被覆する蓋体（２４）とから成る点に於いては、上記の実施例と同一である。そして、この収納体（２１）の内面に、外方に付勢して摺動可能に収納側のフックピース（４８）を接続する。この収納側のフックピース（４８）は、蓋体（２４）方向に開放用の押圧片（３４）を突出するとともに押圧片（３４）の収納部（２０）側に、挿入間隔（３５）を介して収納側係合フック（５１）を押圧片（３４）と平行に突出して形成する。

【００５６】

そして、この収納側係合フック（５１）と収納部（２０）との間に、収納側のフックピース（４８）の摺動間隔（３７）を形成するとともに収納側係合フック（５１）の押圧片（３４）側に傾斜面（３８）を設け、この傾斜面（３８）の収納体（２１）側に収納側段部（５２）を形成する。そして、この収納側段部（５２）に係合可能な蓋側係合段部（５３）を設けた蓋体側のフックピース（５０）を、挿入間隔（３５）に挿入して蓋体（２４）に突出し、この蓋体側のフックピース（５０）の収納体（２１）側に、傾斜面（３８）と押圧摺動可能な押圧傾斜面（４３）を形成する。

【００５７】

また、蓋体側のフックピース（５０）の押圧片（３４）側に、押圧片（３４）の突当押し上げが可能な押し上げ傾斜面（４５）を形成する。そして、この押し上げ傾斜面（４５）に押圧片（３４）を突き当てた状態で、収納側段部（５２）と係合段部（４１）との先端が係合関係を保持するよう収納側段部（５２）と係合段部（４１）との係合代を形成する。そして、押圧片（３４）を更に押し上げ傾斜面（４５）に押圧した時、収納側段部（５２）の先端が、蓋側係合段部（５３）の先端を乗り越えて係合を解除するよう構成している。

【００５８】

そして、蓋体（２４）の開放を行うには、押圧片（３４）を押圧することにより、収納側段部（５２）と蓋側係合段部（５３）の解除及び係合をするものであるが、前記実施例と位置関係が逆になるだけであって、何ら作用上の差異はないものである。

【００５９】

【発明の効果】

本発明は上述の如く構成したものであるから、コンパクト容器を誤って床面等に落下させた場合や、ハンドバックの内部に於て、他の物と押圧片が接触し、押圧されるようなことがあっても、係合段部と蓋側段部との係合は、確実なものとなり、不用意にこの係合が解除されるようなことがなく、収納体に収納した化粧料の四散、周囲の汚染等の事故を生じることがない。

【００６０】

また、蓋体の開放及び閉止に於て、その開放時及び閉止時に於て、使用者の手元にクリック感を伝えることが可能となるから、常に蓋体の確実な閉止と確実な開放を、使用者に於て容易に認識することができ、使用感のよい製品を提供することができるものである。

【００６１】

【図面の簡単な説明】

【図１】蓋体と収納体の閉止状態を示す断面図。

【図２】蓋体を開放し、図１の下側から見たフックピースと蓋体の接続関係を示す平面図。

【図３】図２のＡ－Ａ線切り欠き端面図。

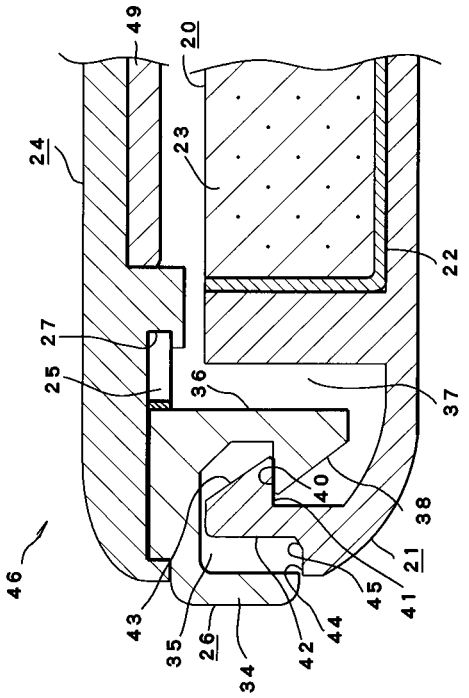
【図４】蓋体の下端が押し上げ傾斜面に突き当たった状態を示す断面図。

【図５】押圧片の押圧が最大となり、蓋側段部が係合段部を乗り越えた状態の断面図。

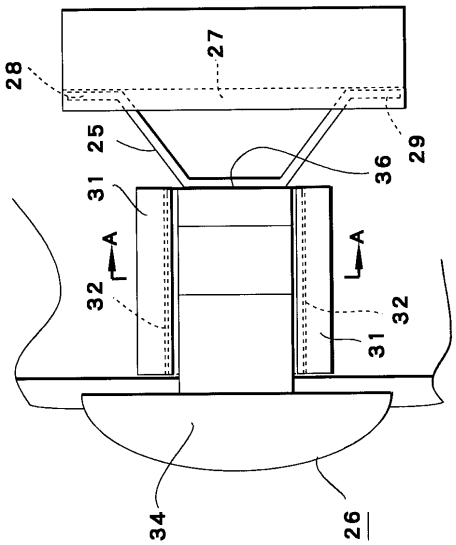
【図６】蓋体が開放された状態の断面図。

【図７】フックピースの取り付け位置を収納体側に形成した状態の断面図。
【図８】蓋側段部と係合段部との異なる形態を示す実施例の断面図。
【図９】蓋側段部と係合段部との更に異なる実施例の断面図。
【図１０】第一の従来例を示す断面図。
【図１１】第二の異なる従来例を示す断面図であって、蓋体と収納体の閉止状態を示す断面図。
【図１２】第二の異なる従来例に於て蓋側フックピースを押圧し、係合段部が係合を解除した状態の断面図
【符号の説明】
２０　収納部
２１　収納体
２３　化粧料
２４　蓋体
２６　蓋側フックピース
３４　押圧片
３５　挿入間隔
３６　蓋側係合フック
３７　摺動間隔
３８　傾斜面
４０　蓋側段部
４１　係合段部
４２　収納側フックピース
４３　押圧傾斜面
４４　挿入部
４５　押し上げ傾斜面
４８　収納側のフックピース
５０　蓋体側のフックピース
５１　収納側係合フック
５２　収納側段部
５３　蓋側係合段部

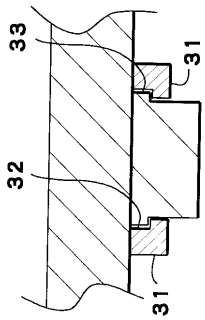
【図１】


49
20
24
23
22
27
25
36
37
40
38
46
21
45
41
43
35
26
34
42
44

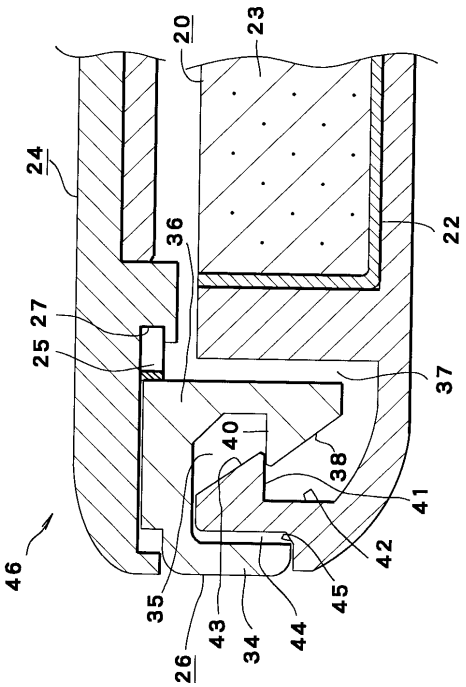
【図２】


28
27
25
29
36
31
A
A
32
32
31
34
26

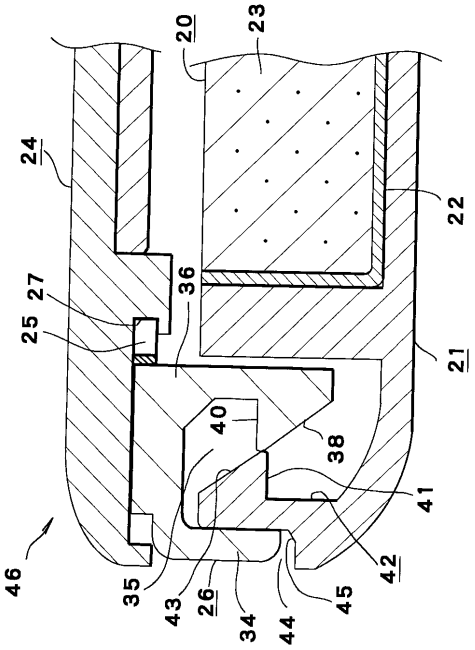
【図３】


33
31
32
31

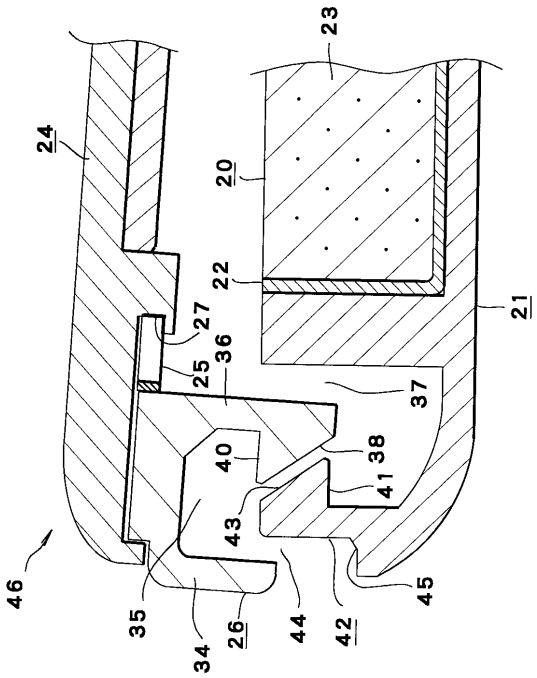
【図４】


20
23
24
36
22
27
25
37
40
38
41
46
42
45
35
43
34
44
26

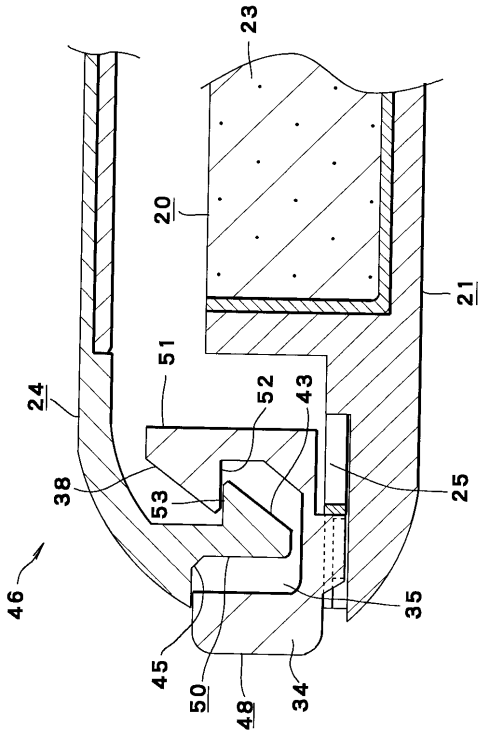
【図５】


20
23
24
22
27
25
36
21
40
38
41
46
35
43
26
34
44
45
42

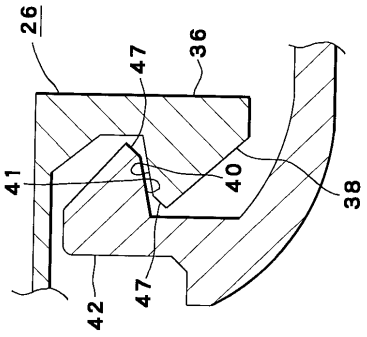
【図６】


23
24
20
22
21
27
25
36
37
40
38
41
43
46
35
34
26
44
42
45

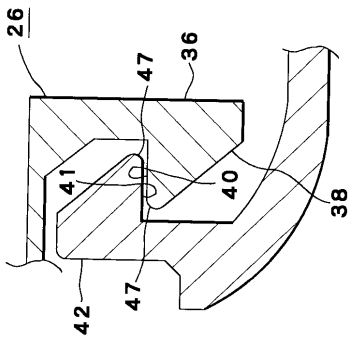
【図７】


23
20
21
24
51
52
43
38
53
25
46
35
45
50
48
34

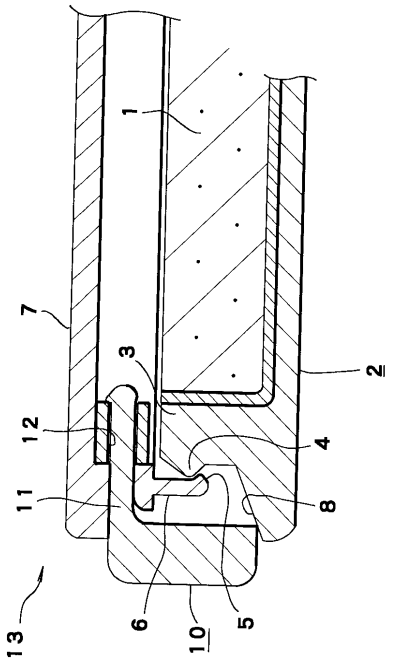
【図８】


26
47
36
41
40
38
42
47

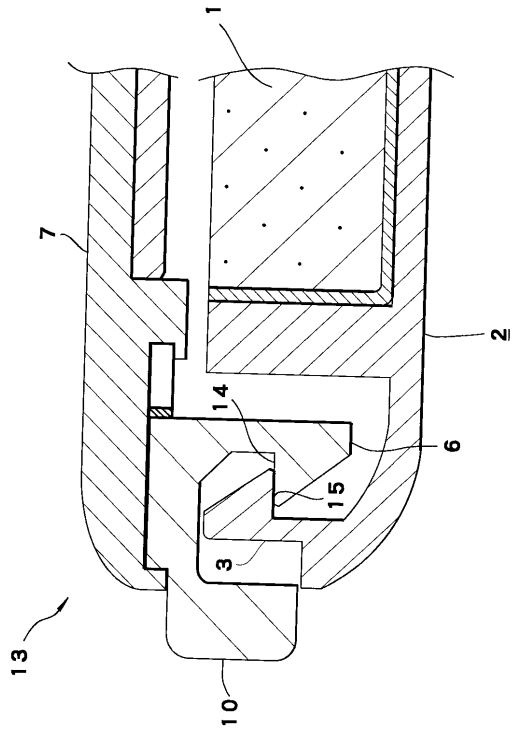
【図９】



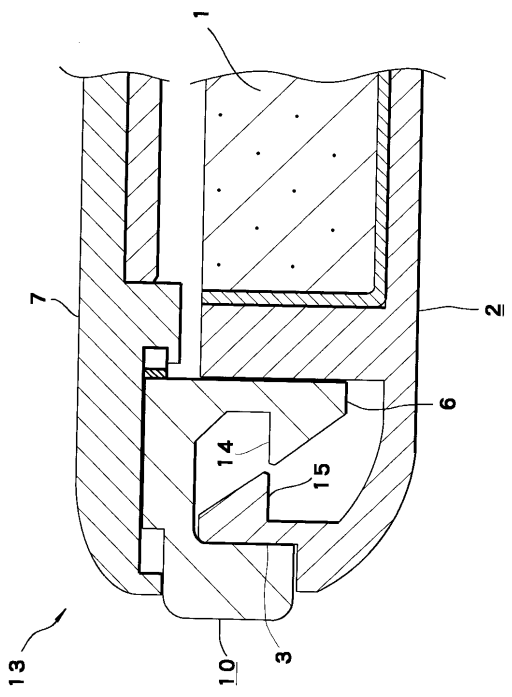
【図１０】



【図１１】



【図１２】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開平０２－１０６１１６（ＪＰ，Ｕ）
実開平０１－１０１４０３（ＪＰ，Ｕ）
実開平０２－０６３７１０（ＪＰ，Ｕ）
実開平０５－０５６００８（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
A45D 33/00